

西宮市立郷土資料館ニュース 第40号

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662-0944 電話 0798-33-1298

第30回特別展示「西宮の古文書—岡本家文書の世界—」

俵谷和子（当館学芸員）

はじめに

西宮市立郷土資料館では、平成26年(2014)7月19日(土)から8月31日(日)まで、30回目となる特別展示「西宮の古文書—岡本家文書の世界—」を開催する。慣れ親しむ機会の少ない古文書(こもんじょ)ではあるが、私たちに多くの事象を教えてくれる一級の歴史資料である。

歴史研究では「古文書学」という独自の学問が発達し、料紙・形式等で文書の役割・時代などが判別できる。その対象は、古代・中世(室町時代)としており、西宮市内には古文書学でいうところの古文書はほとんど存在しない。

しかし、「岡本家文書」は、近世・近代を通して公文書としての性格と庶民生活史料としての性格をもつ膨大な文書群である。展示では、西宮市指定重要有形文化財(古文書)「岡本家文書」を全点展示し、歴史史料としての西宮の宝を紹介したい。

1. 西宮市指定重要有形文化財「岡本家文書」

「岡本家文書」が西宮市指定重要有形文化財(古文書)となったのは、昭和54年3月20日である。岡本家は、近世初頭から尼崎藩領摂津国武庫郡上瓦林村の庄屋を勤め、元禄8年～宝永2年(1695～1705)には郡右衛門(のちの大庄屋にあたる)、享保8年～宝暦6年(1723～1756)、明和2年～明治4年(1765～1871)には大庄屋を勤めた。

同家には江戸時代全期にわたる膨大な各種史料が68合の箱に収められ保存されてきた。その存在は、戦後まもなく開始された近世庶民資料調査でもその量と質は群を抜いている。

市政30周年を記念して刊行された『西宮市史』全8巻でも大いに利用され、阪神間の自治体史編纂には欠かせない資料であった。

なかでも岡本家の歴代当主によって記された「大庄屋日記」は、尼崎藩から通達された公文書等の写し書きをはじめ、正月の挨拶廻り、宗門改め、船改め、立

見検見、大廻り出勤、免附帳作成、国役銀上納等村役人としての職務が克明に記述されている。また、伊勢講、御師の檀廻り、齋などの宗教行為や虫送りなどの民俗行事も記述されている。



写真1 岡本家主屋(震災以前)

文化5年(1808)から明治まで書き続けられた豎帳50冊の日記が大変有名であるが、それを遡る時代に書か

れた日記も現存しており、これらの日記の翻刻作業により(1)、18世紀中頃の岡本家と西宮周辺地域の様子が少しずつ明らかになりはじめている(2)。まだ、整理が完結していないため全体の把握はできていないが、文書群の史料一点一点を丁寧に解説をすすめていけば新たな歴史事実も判明してくるであろう。

2. 大庄屋の仕事

大庄屋は、江戸時代の村役人のことで、苗字帯刀も許された。

尼崎藩の大庄屋制度は、青山氏が入部したときには郡右衛門の名で導入された。尼崎藩の領地を7村から20数ヶ村の組に分けて管轄し郡右衛門の居住する村の名前をとって呼称された。岡本家は上瓦林村に居住していたので、「瓦林組」と呼ばれていた(図1)。

尼崎藩の大庄屋に対する研究も、少しずつ進み始めている(3)。そこから大庄屋の職務を紹介したい。日常的には、諸願・届出に対する奥印を行うこと、藩からの御用状を受理し組下の村々に廻状することである。個人や村から提出される願書に奥印し、代官・寺社方・宗門方・浦方等に提出した。文政10年(1827)1月を事例にとれば、1ヶ月の間に45通もの願書が提出されており、その事務量は多かったことがうかがえる。

決まった時期に行われる職務としては、春秋の宗門改め、船改め、作付けの届け出、その年の収穫が不熟であったときは検見の立会、代官巡村の同行、免付帳との照合、国役銀の上納、千石夫割賦、縄藁上納、年貢勘定等があった。

『大庄屋日記』文政12年(1830)2月15日の岡本家の一日を見てみたい。

- ・小林村(現宝塚市)から出ていた鉄砲の願書が聞き届けられたので、そのことを伝えた。
- ・小林村と上ヶ原新田に早稲の粃種付の石数を早く申し出るよう伝えた。
- ・昨年から尋ねられていた伊子志村(現宝塚市)の太郎右衛門の息子が京都伏見で

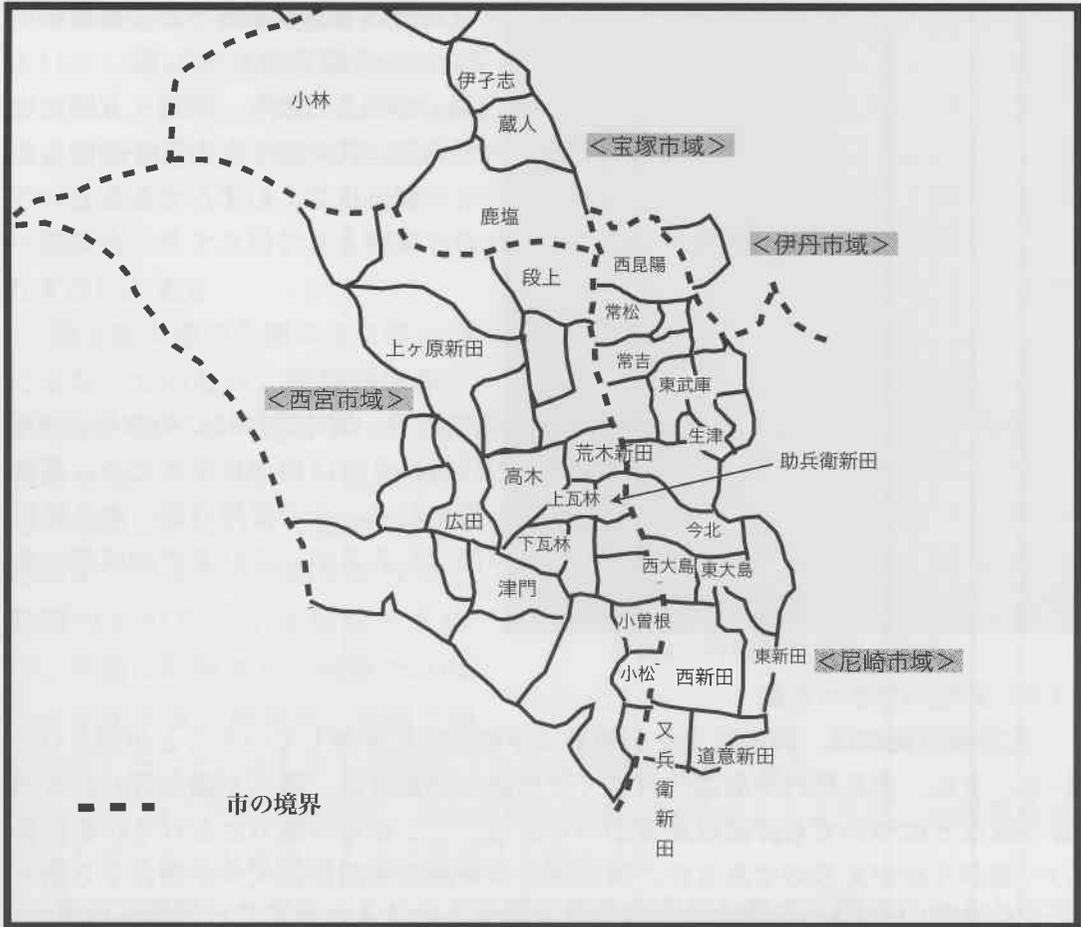


図1 瓦林組支配の村（元禄～天保） ※『兵庫県史』より作図

発見され、連れ帰られたことを届けに来た。すぐに代官へも報告したと聞いた。宗門改帳も受け取った。

- ・中濱新田(現尼崎市)よりの宗門改帳を受け取った。
- ・生津村(現尼崎市)庄屋幸右衛門が宗門改帳を持参した。
- ・山田村(現宝塚市)猪右衛門へ新しい判を使用する願六通に奥印して遣した。
- ・蔵人村(現宝塚市)年寄孫四郎が庄屋と年寄の跡役願二通持参したので、預り置いた。

3月は宗門改めが行われるため、瓦林組の村々の庄屋に対して宗門改帳を提出するように通知していたのであろう。次々に宗門帳が届けられているのを受け取っている。各村から宗門帳を届けるのと同時に願書に奥印をして渡したり、庄屋役・年寄役の後任の願書を受け取ったりしている。こうした村役人の職務は、それなりの激務であり、また経済的な負担も大きかった。

3. 古文書以外の資料

(1) 古典籍類

大庄屋になると、さまざまな知識や教養を身に付ける必要があった。毎年の正月には藩主にお目見えし、立ち振る舞いにも気をつかう必要があった。

姫路藩の大庄屋三木家では『三木家蔵書目録』が残されており、四書・五経をはじめとする蔵書4189冊があったことが知られている。代々当主となる子供たちの教育に使用されたようだが、現在は売却されその蔵書はごくわずかであるという(4)。岡本家でも同様に、教養を身につけるために蔵書として伝えてきた古典籍が残されている。

(2) 御門通札

尼崎城門を通行するために発行された木札である。岡本家にはこの木札が300点以上伝わっている。この通行証は大庄屋の代替わりには再交付するため、瓦林組の村々から回収したものが残されたものと思われる。その使用方法、木札発行までの背景等まだまだ明らかになっていない部分もあるが、これまでの成果(5)をふまえてさらに調査研究していきたい。

(3) 御札のつまった俵

大庄屋日記には、岡本家当主が頻繁に伊勢神宮に参拝していたことが記されている。また、上瓦林村や周辺の村々で伊勢講が開催され、講名や講が行われる当番の家などについても詳細な記事がみられる。ここから当地方における伊勢信仰の一端がうかがえるのであるが、岡本家は伊勢御師来田民部大夫が滞在する宿としても機能していたようである。そのことをうかがえる資料として、昭和46年5月に岡本家の屋根裏から発見された俵がある。

この俵には、多数の伊勢神宮の札(大麻)をはじめ各社寺が発行した札が含まれていた。調査の結果、未完成の札のほか完成品の札466本があった。御師たちが必要な部品を用意しておき、岡本家滞在中に札を完成させ、これを各村の伊勢講に配札していたことが明らかになった(6)。岡本家が御師の常宿として当地方における伊勢信仰の一拠点であったことがわかる。

4. 阪神淡路大震災

平成7年1月17日の阪神淡路大震災によって、岡本家の主屋は全壊した。西宮市指定文化財である「岡本家文書」は長期整理作業のため、西宮市外にあったためその被害を免れた。

神戸大学を中心とした歴史資料保存ネットワークのメンバーによる救出活動が行われ、新たな近代史料が発見された。それは主屋の南側に建つ長屋門に保存されていた明治7年に新調した村用筆筒で(写真2)、筆筒の中には、上瓦林村の公文書が収納されていた。村の役員になるとこの筆筒を引き継ぎ、事務にあたったものと思われる。

震災によって主屋は全壊したが、さいわい蔵には大きな被害が及ばなかったという。今後も、新たな歴史資料が発見される可能を秘めている。

むすびにかえて

岡本家文書の全貌はまだ明らかにはなっていない。仮目録は存在するが、全てを一見してわかる状態にはなっていない。収蔵庫には、分類ごとにわけた収納箱が60箱以上、大まかな分類をかけて未整理のものや全く未整理のものが、茶箱に収納された状態で20箱以上存在する。震災後、当館で寄託資料となっているものも20箱以上あり仮目録の状態である。

一日も早く「岡本家文書」の全体像を皆様に提示できるように、本展覧会では岡本家文書を収蔵庫から全て運び込み展示する。

是非ご観覧いただき、これほどの歴史資料が震災を越えて残されたことの意味・意義を感じていただきたいと思う。そして、古文書をもっと身近に感じ、大切に未来へ残していくべき宝であることも感じていただきたいと思う。

註

- (1) 『研究報告』第九集 西宮市立郷土資料館 2010年3月刊
- (2) 衛藤彩子「岡本宇兵衛の日記を読む」(『西宮市立郷土資料館ニュース』第39号 2013年6月刊)
- (3) 岸添和義「尼崎藩の大庄屋制度について」(『地域史研究』第35巻2号 尼崎市立地域研究史料館 2006年3月刊)
- (4) 竹下喜久夫「大庄屋三木家の好学の風」(『近世の学びと遊び』思文閣出版 2004年3月刊)
- (5) 衛藤彩子「資料紹介『御門通札』及び関連史料」(『研究報告』第八集 西宮市立郷土資料館 2008年3月刊)・「尼崎御門通札の変遷と城内通行—岡本家大庄屋日記の事例から—」(『研究報告』第十集 西宮市立郷土資料館 2013年11月刊)
- (6) 井阪康二「西宮市瓦林町の岡本家より見つかった御札の報告」(『研究報告』第一集 西宮市立郷土資料館 1991年3月刊)



写真2 村用筆筒背面(墨書)

西宮市生瀬地区文化遺産総合調査について

西尾嘉美（当館嘱託）

はじめに

西宮市立郷土資料館では、平成25年度に策定した「まもる・いかす・つたえる文化財保存活用にしのみや計画」に基づき、西宮市内の文化遺産総合調査を開始しました。

1. 生瀬地区の調査

生瀬地区は、西宮市域の北部に位置し、京・大坂と丹波・但馬、有馬を結ぶ道筋として、多くの旅人が行き交うところでした。

地区の北側を流れる武庫川は、武田尾あたりから溪谷を駆け下り、大きく蛇行しながら川幅を広げ、平野部に流れ出ていきます。

鎌倉時代初期に開かれたと伝える浄橋寺には、国指定重文の本尊阿弥陀如来像をはじめ、浄橋寺文書など、市内で最もまとまった点数の指定文化財が所蔵されています。さらに、江戸時代のはじめには交通の要衝として幕府の宿駅にも指定されるなど、歴史的にも重要な地域です(写真1)。

これまでの文化財調査では、皇太神社の秋祭りに曳行されるダンジリ、地区内でまつられている地蔵などを取り上げました。このような分野別の調査・研究はあるものの、総合的な文化遺産・文化財調査が実施されていません。

そこで、今年度から、生瀬地域の文化的・歴史的な特色を明らかにすることを目的に、地域住民をはじめ広く市民・学識経験者の協力を得ながら、本格的な文化遺産に関する総合調査を行うこととなりました。

調査に際しては、『生瀬の歴史』(昭和32年)、『生瀬の現代史』(平成20年)という郷土史の冊子を参考にしつつ、古文書・石造品・建築物といった個々の資料だけでなく、街並み、自然環境、人々の暮らしなど、有形・無形の文化財・文化遺産を広く取り上げます。

一般的な文化財調査と言えば、古文書を整理し翻刻し、石造品の所在を確認し…等、古いモノに「こだわった」調査になりがちですが、今回の調査では「幅広く」生瀬を記録しようと考えています。



写真1 わずかに残る街道沿いの古民家

例えば、街道筋に面した生瀬の街並みは、かつては江戸時代の宿場町の雰囲気の色濃く残したものとして知られており、西宮の古風景を取り上げた写真集には必ずと言っていいほど登場しました。しかし、昭和時代の後半から平成にかけて、特に阪神淡路大震災以降は、次々と江戸時代の古民家が建て替えられてしまいました。大きく様変わりした街並みは、従来の文化財調査の対象になりにくいのですが、今回の調査では



写真2 夏越の祓・茅の輪くぐり

街並みが変わっていった様子についても、新たな写真の掘り起こしや地域住民の方への聞き取りを加えて、多角的に記録していく予定です。

また、いわゆる専門家が調査するのでは、その興味・関心の方向性に偏りがちです。そこで、今回の調査を通して自分たちの住む「ふるさと生瀬」に興味を持っていただくことを目的に、地域住民の方々にも調査にもご参加いただくようにご案内をいたしております。

そして、平成26年度から27年度にかけて調査を実施し、その成果を新たな「生瀬の歴史」の冊子として刊行できればと考えています。

なお、各分野の調査で得られた成果については、随時ご紹介致しますので、お楽しみに！

2. 調査速報

平成26年6月22日(日)、梅雨空の下、暑い夏を健やかに過ごせることを祈願して、大祓・夏越の祓の神事が行われました(写真2)。

当日は午前中に月次祭の祭典が行われ、午後4時からの大祓に合わせて茅の輪が用意されていました。直径2mほどの茅の輪は茅萱(チガヤ)の緑も鮮やかで、今年初めて作られました。茅の輪をくぐると災厄を免れるといい、西宮市内では西宮神社・広田神社・大市八幡神社などでも同様の行事が行われています。

厳粛な祭典のあと、にわかに関雨が降り出しましたが、神職の方を先頭に役員の皆さん、参拝者の皆さんが次々くぐって息災を祈願しておられました。

寄贈資料一覧 (平成25年4月～平成26年3月、敬称略)

私札／札 (博労町発行) (大機 勝)、原老柳古稀配物帳 2点 (大島明人)、袷紗 6点 (藤田卯三郎)

ご寄贈ありがとうございました。

西宮市立郷土資料館ニュース目次（第21号～第40号）

発行年月日	号-頁	題目（筆者）
1997年2月1日	21-2	西宮市域の西国三十三所巡礼道（井阪康二）
1997年9月15日	21-5	最近の資料調査から-西宮樽廻船問屋の事跡を訪ねて-（西川卓志）
	22-2	特別展「江戸時代の西宮と海」鯛を追う、酒を運ぶ。（西川卓志）
1998年7月1日	22-5	最近の発掘調査から（合田茂伸）
	23-2	特別展「紅野芳雄『考古小録』」-西宮考古学のパイオニア-（合田茂伸）
1999年7月24日	23-5	「衛生」-近代瓦木村の伝染病対策と衛生組合-（衛藤彩子）
	24-1	西宮市立郷土資料館所蔵教育資料の展示～第14回特別展「学校探検」にむけて～（西川卓志）
2000年3月31日	24-5	歴史ハイキング「吹田の文化財をめぐる」で訪れた名次神社と西宮（京田直美）
	25-1	絵図の風景～指定文化財公開「国絵図の公開展」で考えたこと～（西川卓志）
2000年7月31日	25-6	パーソナルコンピュータの導入と、LAN・インターネット利用にいたる経過（合田茂伸）
	26-2	西宮町浜図～特別展「西宮古地図大観」によせて～（合田茂伸）
2001年2月14日	26-5	資料紹介 おかきぎり～かき餅を作る道具～（大上直美）
	27-2	資料紹介「洗はりゆのし クリーニング 虎屋」の洗張り道具（大上直美）
2001年8月4日	27-7	www.nishi.or.jp/~kyodo/インターネットウェブページのご紹介
	28-2	特別展「道具の記録／道具の記憶」（大上直美）
2002年8月10日	28-7	さがしものたびにでよう！（上）（宮原彩）
	29-1	当館収蔵古文書の利用状況（俵谷和子）
2003年3月31日	29-4	さがしものたびにでよう！（下）（宮原彩）
	30-1	平成14年度指定文化財公開『史跡西宮砲台関係近世文書展』について（衛藤彩子）
2005年3月31日	30-5	第22回特集展示『史跡西宮砲台関係近代文書展』について（俵谷和子）
	31-1	郷土史学習会について（宮原彩）
2008年6月30日	32-1	第24回特別展示「西宮の寺院縁起」（俵谷和子）
2009年3月31日	33-1	西宮市名塩のトンド（細木ひとみ）
2010年7月1日	34-1	資料紹介「西宮勤番所絵図」（衛藤彩子）
2011年2月28日	35-1	第26回特別展示「西宮の山岳信仰」（早栗佐知子）
	35-5	西宮市山口町下山口の百味講（細木ひとみ）
2011年6月30日	36-1	第27回特別展示「西宮の講—つどいの民俗—」（細木ひとみ）
	36-5	武庫郡・菟原郡の郡境について—阿弥陀寺の鐘と双盤—（俵谷和子）
2012年6月30日	37-1	第28回特別展示「西宮の祭礼—だんじり巡行を支える人びと—」の開催と門戸天神社の「太鼓」について（細木ひとみ）
2013年3月31日	38-1	登録博物館への登録と入館者数100万人（俵谷和子）
2013年7月30日	39-1	第29回特別展示「西宮の前方後円墳—津門船荷山古墳をさぐる—」（森下真企）
	39-5	岡本宇兵衛の日記を読む（衛藤彩子）
2014年7月19日	40-1	第30回特別展示「西宮の古文書—岡本家文書の世界—」（俵谷和子）
	40-6	西宮市生瀬地区文化遺産総合調査について（西尾嘉美）

目次 CONTENTS

第30回特別展示「西宮の古文書-岡本家文書の世界-」（俵谷和子）…1
西宮市生瀬地区文化遺産総合調査について（西尾嘉美）…6
寄贈資料一覧…7
西宮市立郷土資料館ニュース目次（第21号～第40号）…8

西宮市立郷土資料館ニュース第40号 平成26年（2014）7月19日